



出水南小

校訓: やさしく かしく たくましく

発行: 校長 塩山 武陵

「心のきずなを深める月間」

6月は「心のきずなを深める月間」です。子どもたちが自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、豊かな人間性や社会性を身につけ、子ども一人一人が命を大切に、安心して生活できる学校をつくるのが、この月間の目的です。本日、講話集会で校長から「信頼できる大人に話をしよう」と子どもたちに訴えました。

校長講話

運動会は本当によく頑張りましたね。保護者の方・地域の方々からも「素晴らしかった」「みんな一生懸命頑張っていた」とお褒めの言葉が寄せられました。「一致団結 誰もが輝ける世界に一つだけの運動会にしよう」というスローガンが実現できましたね。

115人



「115人」これは昨年度、出水南小学校でいじめを受けたと言っている人の人数です。とても多いですね。いじめはエスカレートすれば犯罪になります。「傷害・暴行・強要・窃盗・恐喝・器物損壊」などといった罪に問われてもおかしくありません。絶対に許されるものではありません。もしいじめられている友達がいたらどうしますか？その友達はきっと心が傷ついているでしょう。思いやりの心をもって接していきたいですね。

ここで友達を支える合言葉を紹介します。「き・よ・う・し・つ」です。

「き・きづいて」おかしいなと思ったら、**最近元気ないね。どうしたの？**などと声をかけよう。

「よ・よりそう」うん、うんそうだったの・・・友達の言葉に耳を傾けよう。

「う・うけとめよう」**つらかったんだね、話してくれてありがとう**と友達の言葉を受け止めよう。

「し・しんらいできる大人に」先生・親・心のサポート相談員・スクールカウンセラーに

「つ・つなげよう」つなげていきましょう。

いじめを解決するのは大人のひとの協力が必要です。友達の思いをしっかりと大人につなげましょう。

最後に3つのメッセージです。

「だれにでも 心が苦しいことがある」

「どんなに苦しくても 必ず終わりがある」

「だれかに相談できる力を持つとう」

人は一人では生きていけません。「助けて」という言葉を言える人は強い人です。相談することは決して恥ずかしいことではなく、生きるための力です。出水南小学校のみなさんには「生きるために相談できる力」を持ってもらいたいと思います。

